

図書館だより

令和3年4月30日号

図書館こぼれ話

今回は本多先生に今月読んだ本を紹介していただきました。図書館には先生方もたくさん足を運んでくださいます。読書家の先生方と本について語り合うのも図書館の楽しみ方の1つです。



気がつけば4月も今日で終わりです。1年生は新生活に慣れてきた頃でしょうか。みなさんが積極的に図書館を利用してきている姿を見て、嬉しく感じています。この図書館だよりだけでなく、クラッシーを通じて図書館の様々な情報を発信していきたいと思っています。楽しみにしててください。

さて、明日からはゴールデンウィークです。残念ながら今年も不要不急の外出を控えて過ごす連休となりますが、本でおうち時間を楽しく過ごしませんか？今回は連休を満喫できる本を紹介したいと思います。

●本屋大賞や春ドラマの原作など旬の本を読んでみよう

913.6-マ 『52ヘルツのクジラたち』

町田 そのこ || 著 中央公論新社

「助けて、アンさん」田舎すぎてコンビニもない海辺の町で暮らし始めた貴瑚は辛い時、ついその名を呼びます。その時は“むし”と呼ばれる子どもが助けてくれました。仲間には聞こえない52ヘルツの高音で呼びかける、世界一孤独なクジラは私たち自身。いつの日か声は届くし、自分も心地よく響く声を受けとれると思えるようになる本です。

913.6-ナ 『泣くな研修医』

中山 祐次郎 || 著 幻冬舎

隆治は研修医1年目の新人。様々な症状を抱えて押し寄せる患者さんを前に自分が力不足なことに落ち込んだり、上司や先輩の判断とすれ違って悩んだり、うまくいかないことだらけの毎日を送っている。時には泣きながら、必死に患者さん一人ひとりの命と向き合い成長していく姿には思わずもらい泣きしそうになります。

●気になる新着本

596.7-ク 『お茶の時間』

翔泳社

可愛い図鑑が図書館に仲間入りしました。そのシリーズの中から今回は「お茶の時間」をご紹介します。世界中で様々な親しまれているお茶の楽しみ方が満載です。新しいお茶と出会い、おいしい飲み方を知って、素敵なティータイムを送ってください。

913.6-ク

『晴れ、時々くらげを呼ぶ』

鯨井 野分 || 著 講談社

図書委員の僕と、くらげを空から降らせようとしている不思議な後輩小崎の物語。なぜくらげを降らせたのか、その真意を知った時、僕の生き方に変化が生まれます。また、作中には図書委員たちのおすすめ本がたくさん登場し、読書意欲が刺激されます。

●たっぷり時間を使って読むのにおすすめ

913.6-マ 『とっぴんぱらりの風太郎』

万城目 学 || 著 文藝春秋

伊賀で忍びの修業を積む風太郎はやっかいな仲間巻き込まれ、里を追い出されてしまう。何度も命の危機に瀕する運のなさ、その度生き延びる運の強さを持つ風太郎。その人生は豊臣から徳川へ天下が移り変わろうとしている時代の境目で大きく揺れ動く。楽しさ、切なさ、人の温かさ、現実の過酷さで胸がいっぱいになる1冊。

B913.6-タ 『おいしいベランダ』1~9

竹岡 葉月 || 著 KADOKAWA

憧れの1人暮らしを始めた大学生のまもり。両親とは「朝昼晩 新鮮な野菜をいっぱい食べる」と約束したが苦戦中。そんなまもりの救世主となったのは隣に住むイケメンだった。ベランダで様々な野菜を育てる菜園男子の彼とお近づきになったまもりは野菜のおいしさ、ベランダ菜園の楽しさ、菜園男子の彼のツンデレっぷりにハマっていく。

●先生の『今月はこの本を読みました』～本多先生の今月読んだ本は…～

913.6-ザ 『心淋し川』(西條 奈加 || 著 集英社)を読みました。時代は江戸時代、場所は江戸。江戸と言っても小さな汚い川が流れている心町(うらまち)と呼ばれた長屋に住む人々の物語です。もともとは裏町と言われていたと書かれていますが、「心」と書いて「うら」と読ませる所に、この小説の本意があると思います。6つの短編小説がどれも「心町」と「心淋し川」に関連して、最後の『灰の男』に完結していきます。読みやすい文体で女性の視点から描かれています。まずは、最初の一編だけでも目を通してみてください。

【地歴公民科 本多先生】